

○ 9月11日(水)、12日(木)

ふれあい・心のステーション(大丸京都店)



○ 畑 委員長

去る9月12日、京都大丸百貨店で開催されている「ふれあい・心のステーション」の現場を見学しました。この催しは、京都府立の特別支援学校高等部の生徒たちが、実習で自分たちが製作した多様な製品を実際に百貨店で販売し、お客様の笑顔に出会って声を聞こうという試みです。本年は第18回目。実は、去年の会場で、城陽支援学校製のビアマグを一つ買い求め、一年間たいへん心地よく楽しんで使用してきました。今年も何か・・・掘り出し物を見つけようと楽しみにしていました。

会場は、百貨店の中のどの売り場よりも活力のある売場でした。素敵な製品がたくさん販売されていましたので、多くの府民の皆さんに出会ってほしいと願うのですが、二日間しか開催できず残念です。生徒たちが、将来の社会参加に向けて実践を積む姿には、自分が忘れていたような直向きさがあります。マッサージを学ぶ生徒が「日頃から友達や先生を相手に実践を積んできましたが、このステーションで多くのお客様の肩をもんで、いろいろなお話をすることがとても楽しい発見でした」と貴重な感想を聞かせてくれました。この場を提供してくださる百貨店にも感謝しながら、今年求めた5枚の角皿を眺めて楽しんでいます。



○ 冷泉 委員

生徒の皆さんの生き生きした顔が印象的でした。当日に向け販売の練習をしたということでしたが、ここまでの道のりは遠かったのだろうと思っています。たくさんの商品があり、どれも手作りの良さにあふれていました。保護者の方々の応援も、とてもうれしいものがありました。

懇談会で将来の夢を聞かせていただきました。夢の実現をお手伝いできればと願っています。



○ 平塚 委員

昨年以上に多くの来場者で賑わう中、元気よく活気があふれ、生徒自ら自信を持って作製した製品を販売するため、接客対応している姿を見て、とても清々しく感じました。各地域の特性を活かし、先生と生徒が一丸となっている姿に大変感銘を受けました。

○ 9月11日(水)、12日(木)

ふれあい・心のステーション(大丸京都店)



○ 上原 委員

昨年も見学させていただきましたが、生徒たちの作品のレベルが向上していることに感心しました。生徒たちとの懇談会では自分たちが作った心のこもった製品を多くの方々に見てもらおう又は買ってもらう喜びが伝わりました。

初対面の教育委員と対面して緊張している中、一所懸命話そうとする姿が頼もしく思えました。大型の商業施設である大丸百貨店に出店する意義は大きく、後輩たちへの大きな励みになるでしょう。



○ 安藤 委員

「いらっしゃいませ！」と大きな声に出迎えられ、活気ある会場で、ふれあい・心のステーションの様子を見学させていただきました。

会場を回りながら販売の様子を拝見しましたが、高等部の生徒たちの製品は実に立派で、一人一人の個性がにじみ出た手作りならではの温もりがたくさんありました。自慢の製品を手にとってその良さや「こんな風に使って欲しい」など、思い思いに説明する姿は本当に一所懸命で、製作の様子や取組での「がんばり」が思い浮かぶほどでした。

また、百貨店で製品販売を終え、多様なお客様の接遇から「思ったようにアピールできなかった」「練習通りにいかなかった」など販売の難しさを感じながらも、「学校以外の人と交流ができて嬉しい」など、笑顔で話す姿は本当に輝いて見え、卒業後の就労への意欲も感じました。

保護者の方とお話する機会がなかったのが残念ですが、最終的な目標は親から自立して生きていけるようにすることであると思います。この取組で生徒自身が達成感や意欲を感じ自立することや、広く府民や企業の理解も得られるととてもいい機会だと思いますが、特別支援学校卒業生の就職率は決して良いとは言えません。各校とも就職先の開拓に苦労しているのが実情です。

今後も生徒たちが「喜び」や「生きがい」につながる就労支援を継続しながら、学習を通して身に付いた力が発揮できるよう、外部機関や受け入れ先の企業とも連携を図って欲しいと願っています。